

## 中学校で習うこと

子どもたちは、中学1年生の保健体育の授業で、次の内容を学習します。

- 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。
- 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
- 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

## 大切なことは

中学生は、こうした知識とその活用のしかたを学習するとともに、自らに実際に現れる心身の変化に直面しながら成長していきます。そうした成長を喜びながら、正しい情報を基に子どもたちを温かく見守り、大人として支援していくことが大切です。

## 子どもと保護者の関係

子どもは、家庭が楽しく、くつろげる場所であることを願っています。そのためには、家族が互いに認め合い、尊重し合える雰囲気大切です。まずは、次のことに気をつけてみては、いかがでしょうか。

### 一人の人間として尊重し、向き合う

保護者は、思春期の子どもを、一人の人間として尊重し、向き合うことが大切です。人生の先輩として温かく見守り、自分自身の子ども時代の体験談や失敗談を話すこと、また、誠実に努力している姿勢を示すことなどは、子どもの心に響くことにつながります。

### 役割をまかせる、守るべき約束ごとをつくる

子どもに具体的な役割を受け持たせることは、子どもに自信を持たせ、自立を促します。

その際、保護者として子どもに望んでいることや、家族の一員としての役割や責任について話し合みましょう。

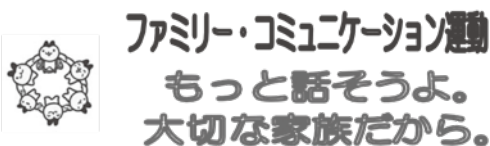
また、「〇時に朝ごはんを食べる」というような行動に移しやすい約束ごとをつくり、その家庭ならではの生活習慣を築くとよいでしょう。

### 日ごろからコミュニケーションを心がける

保護者との関係が変化するこの時期こそ、日ごろから互いの主張を認め合うためのコミュニケーションを図ることが、子どもの精神的な成長には欠かせないものとなります。

例えば「みんなで食卓を囲む日」を設定するなど、家族がそろって家庭内の行事を設けてみたり、部活動など子どもが一生懸命に取り組んでいることを話題にして話しかけてみたりするのもよいでしょう。

また、子どもの希望や夢について聞くときには、保護者自身の小さいころの夢について体験談的に話してみることで、子どもと共通の話題ができ、コミュニケーションを図る一助ともなるでしょう。



相手を思いやり大切にできる子どもを育てるため、家族のコミュニケーションを深める環境づくりを推進します。この一環として、毎月第1日曜日を「ファミリー・コミュニケーションの日」としています。



子どもたちのいじめ、暴力行為、不登校を未然に防ぐため、地域の大人が子どもたちの“育ち”を応援する「かながわ子どもスマイルウェーブ」を推進しています。